

医療安全全国共同行動
行動目標6:急変時の迅速対応

急変時の迅速対応 KKRシミュレーション・ラボセンター 虎の門病院における取り組み

急変対応コースfor Nurses 実践と受講者アンケート

KKRシミュレーション・ラボセンター
虎の門病院看護師 荒井直美

虎の門病院における 急変時迅速対応への取り組み①

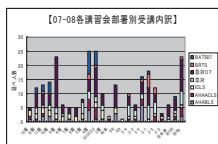
- 集中ケア認定看護師主催
緊急時トレーニングチーム(各階有志)
 - 2003年全職員対象心肺蘇生WG発足
構成インストラクター:循環器医師、有志看護師、臨床工学技士
 - BLS全職員受講の必要性
病院機能評価・アメリカでは全職員必須受講の情報
- 2007年度 ↓ (計40名)
看護部:心肺蘇生WG発足 各部署1~2名選出
&新人対象:集合オリエンテーション5~6月「BLS」

虎の門病院における 急変時迅速対応への取り組み②

2007年度実績

- BLS看護部全員受講
- 2008年度
- KKRキャリアラダー対応 一虎の門病院評価指標
ラダー I ~ IV「BLSトレーニング参加」必須項目へ

KKRシミュレーション・ラボセンター
患者急変対応コース
for Nurses
2007年8月開始



急変時対応への関心の増大

虎の門病院における 急変時迅速対応への取り組み③

2009年度導入

臨床現場からのニーズ

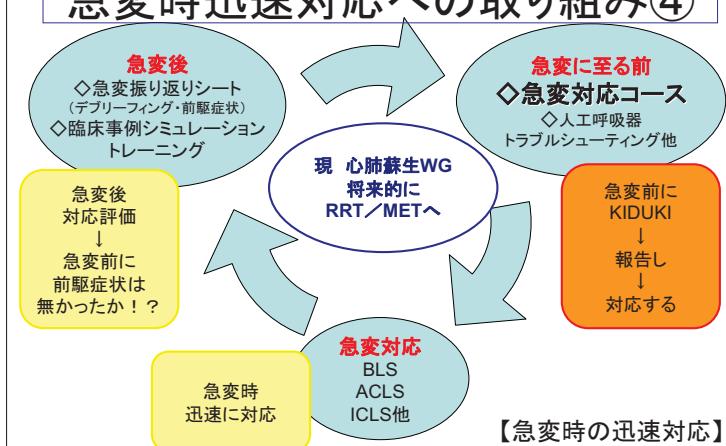
KKR
地方出張
講習

シミュレーション・ラボセン
患者急変対応コース
for Nurses他
講習多數

毎回キャンセル待ち
・コース回数増加
・ファシリテーター
育成
必要

1. 新人オリエンテーション「フィジカルアセスメント」「迅速評価」「SBAR」導入
2. 急変対応振り返りシートを用いたデブリーフィング
心肺蘇生WG主導・全部署対象
3. 実際の急変臨床事例を基にして
事例シミュレーショントレーニング
(医師・看護師・コメディカル各科作成)

虎の門病院における 急変時迅速対応への取り組み④



患者急変対応コース for Nurses

JSISH

国家公務員共済組合連合会
シミュレーション・ラボセンター

患者急変対応コース for Nurses の特徴

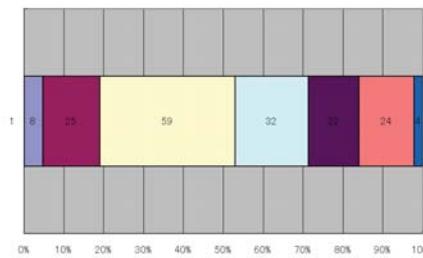
学習目標

- ◆急変の前兆、キラーシンプトム(killer symptom)に対する「気付き」能力が向上できる
- ◆キラーシンプトムの報告ができ応援を要請できる
- ◆応援が到着するまでに救急処置ができる



【急変対応コース受講者状況】

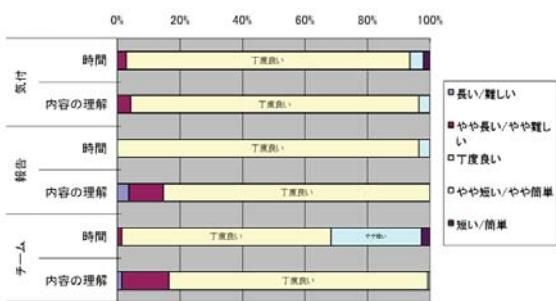
【急変対応コース受講者看護師経験年数】



受講割合(延べ総数174名:0902)

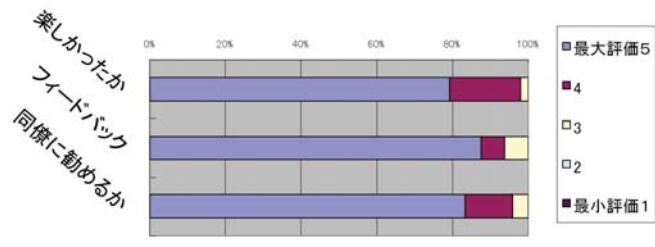
【各セッション時間と内容の理解】

【各セッション時間と内容の理解】



【各設問項目結果】

【各設問項目結果】



コース全体の感想

- 皆で最後には、自信が持てたことがとても良かった。
- 座学と実践があり、ワクワクした。
- 実際にすぐに役立つことが多く、さらに難しくなく、取り組もうと思えること
- 6人という少人数であるため、発言しやすくチームとしての一体感も生まれた。援助者が教える、講義するのではなく、参加者が主体的に参加できるところが良かった。
- このコースこそ、看護師全員必須受講にするべきだと思う。
- 急変が怖いと思わなくなった気がする。どう考えて動くと良いかがわかった。
- 自分の気持ちが大きく変わった。みなにも急変に対して前向きな気持ちを持ってもらいたい。
- 自分たちで考え、最終的には急変時対応を積極的にしていきたい、と思えた自分に驚いた。

ファシリテーターのインプレッション 及び 虎の門・KKR今後の課題＆期待

- コードブルー頻度の減少
- 急変に対する看護師の意識変化
 - ・急変になる前に自分達で食い止めが出来る
 - ・PRE急変 & 急変
 - 漠然とした不安 → 具体化: 対応がうまく出来たor出来ない出来るようにするための対策(どこを強化すべきか)
- 虎の門病院＆KKR全国病院への更なるコース普及
- コース受講後の評価、追跡調査
- 前記図のような急変対応サイクルの意識づけ
- RRT/METへ